

実体経済の動向

◇生産、出荷とも増加基調を持続

(生産——8月微減のあと、9月は再び増加)

鉱工業生産(季節調整済み、以下同じ)は、7月大幅増加(前月比+2.5%)のあと、8月は夏期休暇制度普及による生産減の影響もあって微減(同-0.2%)を示したが、9月(速報、以下同じ)は再び+2.1%と著増した。9月の速報値をもとに7~9月を通じてみると、前期比+4.1%と4~6月の大幅増加(同+5.4%)には及ばないものの、依然かなりの増加基調にある。財別には、生産財が+5.1%と四半期中の伸び率としては久方ぶりの著増を示したのが目だったほか、耐久消費財も4~6月の著増(+10.8%)に続き+5.5%と続伸したが、一般資本財(+1.8%)、建設資材(+0.6%)はいくぶん伸び悩みぎみとなった。

最近の動きをやや詳しくみると、一般資本財は8月+0.3%のあと、9月も引き続き小幅の伸び(+0.1%)にとどまった。8月に著増をみた化学機械が9月は再び減少した一方、工作機械、印刷

機械、合成樹脂加工機械等は根強い増加傾向を続けているなど、品目により区々な動きを示している。資本財輸送機械は、8月船舶を中心に+1.7%の増加を示したあと、9月は鉄道車両、船舶の増加にもかかわらず、トラックの減少が響いて若干の減少となった。建設資材は、8月は建設用金属製品、木材等の減少から-2.5%とかなり減少したが、9月はセメント、鉄筋コンクリート管・パイプ、鉄骨等の増加を中心に相当な増加(+3.8%)を示した。耐久消費財は、8月は家庭電機(冷蔵庫、洗たく機)の著減が響いて+0.1%と小幅の増加にとどまったが、9月は、乗用車の減少にもかかわらず家庭電機を中心に著増(+6.7%)を示した。非耐久消費財は、8月にたばこ、医薬品の大幅減少から-0.8%と減少し、9月も灯油、繊維二次製品を中心に引き続き微減した。この間生産財は、8月横ばいにとどまったものの、9月は再び増加(+0.7%)しており、なかでも鉄鋼の根強い増加が目だっている。

(出荷——一般資本財はやや減少)

鉱工業出荷も、8月に前月比-0.2%と微減したあと、9月(速報、以下同じ)は+2.1%と大幅な増加を示した。もっとも、9月の速報値をもとに

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7月	8月	9月
鉱工業指数	138.2	145.4	148.1	156.1	161.6	161.2	—
工前期(月)比	5.2	5.2	1.9	5.4	2.5	0.2	2.1
業前年同期(月)比	19.5	19.1	17.2	18.4	19.2	16.8	17.0
投資財	6.1	6.9	3.0	5.6	2.0	0.2	1.0
資本財	8.0	9.1	0.8	6.5	2.3	0.9	0
同(輸送機械を除く)	7.8	8.3	4.7	9.6	0.5	0.3	0.1
輸送機械	8.6	8.9	5.0	1.0	8.5	1.7	—
建設資材	2.1	2.0	8.3	3.1	1.5	2.5	3.8
消費財	5.3	6.1	1.4	9.0	0.6	0.9	4.6
耐久消費財	8.2	8.9	4.4	10.8	0.6	0.1	6.7
非耐久消費財	3.8	4.5	3.1	5.4	1.9	0.8	0.1
生産財	4.1	3.3	3.8	2.4	4.3	0	0.7

(注) 1. 通産省調べ、43年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7月	8月	9月
鉱工業指数	137.3	140.8	146.6	154.1	156.4	156.0	—
工前期(月)比	5.5	2.5	4.1	5.1	1.7	0.2	2.1
業前年同期(月)比	18.6	15.4	16.6	17.9	15.5	14.5	16.3
投資財	8.2	0.4	9.4	5.5	-0.1	-1.0	3.2
資本財	10.7	-0.2	9.3	6.5	-0.3	-0.5	3.4
同(輸送機械を除く)	7.6	8.0	4.6	9.6	-0.9	1.2	2.0
輸送機械	16.0	-13.1	19.2	0.6	0.7	-2.6	—
建設資材	0.4	2.4	8.6	3.8	1.3	3.4	1.8
消費財	5.7	3.3	0.9	7.8	1.1	0.7	3.3
耐久消費財	10.5	6.5	1.8	12.2	1.5	-0.5	3.9
非耐久消費財	4.6	2.1	-0.7	5.3	1.7	2.5	-0.1
生産財	3.1	3.4	3.0	2.9	2.9	0.1	1.2

(注) 1. 通産省調べ、43年9月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

7～9月を通じてみると、前期比+2.1%とこの間の生産の伸び(+4.1%)を下回り、また4～6月の出荷の伸び率(+5.1%)をかなり下回っている。財別にみると、一般資本財(7～9月-0.5%)は、4～6月の著増の反動もあって伸び悩みが目だったが、反面生産と同様に、生産財(同+4.3%)、耐久消費財(同+7.5%)は相当な伸びを示した。

内容をやや詳しくみると、一般資本財は、8月は化学機械、特殊産業用機械の反動増をはじめ、一般機械がおおむね堅調な動きを示したことから、前月比+1.2%の増加となったが、9月は農業用機械(耕運機、動力脱穀機)、電話機、機械プレス等の減少を中心にかなりの減少(-2.0%)を示した。資本財輸送機械は、8月には鉄道車両の反動減や船舶の減少を主因に-2.6%の減少となったが、9月は、鉄道車両、船舶の大幅増加から、相当な増加を示した。建設資材は、8月に天候不順の影響もあって木材、セメント等を中心に-3.4%と減少を示したが、9月はセメント、鉄筋コンクリート管・パイル、亜鉛メッキ鋼板等の増加からかなりの増加となった。また、耐久消費財も、8月は光学機械、時計等の減少が響いて

-0.5%と微減したものの、9月は家庭電機(冷蔵庫、洗たく機、テレビ)を中心にかなり大幅な増加(+3.9%)を示した。非耐久消費財は、8月に食料品、たばこ、繊維二次製品等の出荷増加から+2.5%と増加したあと、9月はたばこの著減に加え、繊維二次製品の減少もあって微減した。この間生産財は、鉄鋼の根強い増加にささえられて8月+0.1%、9月+1.2%と増勢を続けた。

(在庫—製品在庫の増加やや目だつ)

鉱工業製品在庫は、7月(前月比+2.2%)、8月(同+1.4%)と増加を続けたあと、9月(速報、以下同じ)も+2.4%と大幅に増加し、この結果、7～9月では前期末比+5.0%と、4～6月の伸び(同+2.6%)を大きく上回った。これには取得税実施に伴う自動車の一時的な在庫著増が少なからず響いているが、この点を除いても、なお増勢が目だっている。もっとも、このような在庫増には一般資本財(7～9月+6.1%)、建設資材(同+10.2%)、耐久消費財(同+8.9%)等を中心におおむね前向きの在庫積増しとみられるものが多いように思われる。

内容をみると、一般資本財は8月に農業用機械、繊維機械、風水力機械等を中心に+2.5%と

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	9月	12月	3月	6月	7月	8月	9月
鉱工業	115.9	124.2	132.4	135.9	138.9	140.8	—
前期(月)末比	4.2	7.2	6.6	2.6	2.2	1.4	2.4
前年同期(月)末比	9.7	18.0	21.9	22.1	24.6	25.1	24.2
製品在庫率	83.0	87.6	90.3	88.3	88.8	90.2	90.5
投資財	7.2	2.7	7.8	-2.2	3.7	4.3	2.2
資本財	6.5	7.2	12.2	-6.0	3.5	6.0	1.5
同(輸送機械を除く)	7.1	6.9	4.4	2.4	0.4	2.5	3.1
輸送機械	-1.4	14.8	47.9	-33.7	15.9	18.5	—
建設資材	6.8	-2.8	4.5	2.1	4.0	2.3	3.6
消費財	2.2	10.1	5.8	6.4	2.5	2.3	4.1
耐久消費財	0.2	9.2	14.5	10.5	0.9	1.8	6.1
非耐久消費財	4.9	9.9	0.4	5.1	3.2	0.9	0.7
生産財	4.5	6.1	5.7	1.4	1.4	-0.6	-0.5

(注) 1. 通産省調べ、43年9月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年	43年		43年		
	12月	3月	6月	6月	7月	8月
在庫指数	130.0	133.4	130.1	130.1	128.8	130.0
前期(月)末比	1.6	2.6	-2.5	-1.3	-1.0	0.9
国産分	0.3	3.4	-4.0	-1.2	-1.4	0.7
素原材料	1.0	10.1	-7.9	-7.5	1.1	-1.2
製品原材料	0.4	0.6	-2.5	0.6	-2.4	1.4
輸入分	6.0	0.1	2.0	-0.6	-0.2	2.4
素原材料	6.1	-0.9	2.4	-0.3	-0.1	2.8
在庫率指数	90.0	90.1	86.4	86.4	83.5	83.2
国産分	88.4	89.4	84.0	84.0	80.8	80.3
素原材料	100.8	107.9	96.2	96.2	95.3	94.3
製品原材料	87.6	86.3	82.5	82.5	78.5	78.5
輸入分	94.8	90.6	95.8	95.8	93.7	94.7
素原材料	97.2	91.4	96.5	96.5	94.1	95.5

(注) 通産省調べ、43年8月は暫定。

増加したあと、9月もかなり大幅な増加(+3.1%)を示した。資本財輸送機械は、8月にトラックの著増から+18.5%と前月に引き続き急増したが、9月は軽・小型四輪トラックの減少などからやや減少した。建設資材は、8月にセメント、建設用金属製品の増加から+2.3%と増加したあと、9月も引き続きセメント、耐火レンガを中心に大幅な増加(+3.6%)を示した。耐久消費財は、5月来増勢を続けた家庭電機が8月は減少したものの、乗用車、時計、カメラ等の増加から+1.8%と増加、9月も家庭電機を中心に著増(+6.1%)した。非耐久消費財は、8月は食料品が増加したものの、たばこ、医薬品の減少もあって+0.9%と比較的小幅の増加にとどまり、9月も灯油、たばこ等を中心に落ち着いた動きを続けた。この間生産財は、鉄鋼、化学製品等を中心に8月-0.6%、9月もこれと同程度の減少と2か月連続して減少を示した。

このような出荷、在庫の動きを映じて、製品在

製造工業原材料消費の推移

(季節調整済み、前期(月)比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	10~12月	1~3月	4~6月	6月	7月	8月	
製造工業	1.3	3.0	1.3	0.6	2.4	1.3	
国産分	1.1	2.9	1.7	0.5	2.5	1.3	
素原材料	-1.9	0.7	2.6	1.4	2.1	0	
製品原材料	1.6	3.2	1.6	0.4	2.5	1.4	
輸入分	2.8	4.0	-2.6	0.4	2.0	1.3	
素原材料	1.9	4.1	-1.9	1.1	2.4	1.4	
製品原材料	14.4	1.5	-9.3	-4.0	-4.3	1.2	

(注) 通産省調べ、43年8月は暫定。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	42年		43年		43年		
	12月	3月	6月	5月	6月	7月	
総合指数	125.2	130.7	126.0	130.4	126.0	134.7	
前期(月)末比	5.7	4.4	-3.6	0.8	-3.4	6.9	
素原材料	-3.7	4.0	0.9	-0.3	6.2	7.0	
製品	6.3	4.4	-3.9	0.9	-4.1	7.1	

(注) 通産省調べ、43年7月は暫定。

庫率指数は8月90.2、9月90.5と上昇傾向をたどり、9月には過去1年間のピークである本年3月(90.3)の水準を上回った。

メーカー原材料在庫は、8月は前月比+0.9%と5か月ぶりに増加を示した。業種別には、鉄鋼が4月以降連続して減少しているほか、化学、非鉄も減少したが、反面前月著減の石油をはじめ、金属製品、機械、船舶、繊維等の業種は軒並み増加に転じた。一方、8月の原材料消費は、前月比+1.3%と増勢を持続した。業種別には前月著増の船舶、石炭、ゴム製品が減少したほか、繊維も微減したが、その他の業種はいずれも増加を示した。以上のような在庫、消費の動きを映じて、8月の原材料在庫率指数は83.2、前月比-0.4%とわずかながら引き続き下落した。

7月の販売業者在庫は、前月比+6.9%と大幅な増加を示した。もっとも、これは主として、自動車の在庫が7月1日以降の取得税実施に伴う販売減から大幅に増加したことによるもので、かりにこの影響を除くと、前月比-0.9%と引き続き落ち着きぎみに推移している。

(設備投資—機械受注は引き続き増加基調)

設備投資にはほぼ一致して動く一般資本財出荷の動きをみると、8月は前月比+1.2%のあと、9月(速報)は-2.0%と再び減少を示し、この結果7~9月を通じてみると前期比-0.5%と、4~

需要別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	43年			43年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
民需	1,261	1,528	1,702	1,673	1,727	1,707
	(-16.2)	(21.1)	(11.4)	(13.6)	(3.3)	(-1.2)
同/海運を 除く	1,167	1,360	1,557	1,455	1,586	1,630
	(-17.0)	(16.5)	(14.5)	(14.9)	(9.0)	(2.8)
製造業	679	756	906	773	854	1,091
	(-22.5)	(11.4)	(19.8)	(11.5)	(10.5)	(27.6)
非製造業	585	765	824	903	862	706
	(-6.0)	(30.7)	(7.7)	(18.7)	(-4.5)	(-18.1)
同/海運を 除く	489	604	674	683	725	613
	(-7.3)	(23.5)	(11.6)	(25.0)	(6.3)	(-15.4)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

6月著増(同+9.6%)のあとさすがに小幅の減少となった。この点から推して、GNPベースでみた設備投資の伸び率も7~9月にはいくぶん鈍化しているように思われる。しかし、基調としては依然根強い動きを持続しているものとみられ、とくに、4~6月以降の機械受注の持ち直し(後述)や各種設備投資計画調査結果にみられる企業の増額修正の動きなどを考慮すると、設備投資はかなりの増勢を続けるものとみられる。

設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需)は、7月著増(前月比+14.9%)のあと8月同+9.0%、9月同+2.8%と増勢を持続し、この結果7~9月を通じてみると、4~6月(前期比+16.5%)比+14.5%と期初の見通し(船舶を除く民需、前期比+0.2%)を大幅に上回る増加となった。9月の動きを受注先業種別にみると、製造業では化学、鉄鋼、造船、食品等を中心に前月比+27.6%の著増を示したが、反面非製造業では電力、建設等の減少が響いて-15.4%の減少となっ

ている。

◆主力商品は騰勢一服

最近の商品市況をみると、繊維がおおむね軟化したほか、これまで上伸を続けてきた鉄鋼も保合いとなり、また非鉄も上げ止まり模様となるなど、総じてみると主力商品を中心に騰勢一服商状を呈している。

鉄鋼、繊維を中心とする主要商品は、8月から9月にかけて秋需の一段の盛り上がり期待から、かなり急速な値上がりを示してきたが、ここにきて、鉄鋼ではこれまでの急テンポの上伸に対する訂正気運が生じ、このため流通段階では今後の実需の動向をいましばらく見きわめたいとの態度が強まっているほか、繊維でも実需の高値追従難を背景とする市場人気の一時的離散が、やや目だっている。しかし、総じてみると、需給地合いは依然引き締まりぎみに推移しているため、メーカーの中には実需の先行きに自信をいただき、いっそうの値上げを図ろうとする向きもうかがわれるあり

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウエ イト	上昇期 (ボトム40/7) →43/2	下降期 (ピーク43/2) →43/9	最 近 の 推 移									
				43 年			43 年 9 月			43年10月			
				7 月	8 月	9 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬		
総 平 均	100.0	+ 6.1	- 0.4	- 0.2	保 合	+ 0.6	+ 0.4	+ 0.1	保 合	+ 0.2	+ 0.1		
食 料 品	15.7	+ 9.7	+ 2.6	+ 0.2	- 0.1	+ 0.8	+ 0.7	- 0.4	- 0.4	+ 1.2	+ 0.4		
繊 維 品	10.7	+ 11.4	- 2.4	- 0.4	- 0.6	- 0.1	- 0.2	+ 0.7	- 0.2	- 0.3	- 0.3		
鉄 鋼	9.7	- 0.9	- 0.7	- 0.2	+ 0.1	+ 0.9	+ 0.4	+ 0.3	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2		
非 鉄 金 属	4.4	+ 19.3	- 7.3	- 1.2	- 0.7	+ 3.1	+ 1.5	+ 0.7	+ 0.8	+ 0.4	- 0.2		
金 属 製 品	3.8	+ 4.6	0.0	保 合	+ 0.3	+ 0.3	+ 0.2	保 合	+ 0.3	+ 0.7	保 合		
機 械 器 具	22.1	+ 1.1	+ 0.2	- 0.1	- 0.1	保 合	保 合	保 合	保 合	- 0.2	- 0.1		
石 油 ・ 石 炭	5.6	0.0	- 4.6	- 0.7	- 0.4	- 0.1	+ 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.1		
木 材 ・ 同 製 品	6.2	+ 29.7	+ 1.8	+ 0.9	+ 1.1	+ 2.0	+ 1.5	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.1		
窯 業 製 品	3.0	+ 7.1	+ 0.9	+ 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1		
化 学 品	7.6	- 5.1	- 1.6	- 0.6	+ 0.1	- 0.1	- 0.1	保 合	- 0.1	保 合	保 合		
紙 ・ パ ル プ	3.4	+ 2.5	- 0.4	- 0.1	保 合	+ 0.2	保 合	保 合	+ 0.1	保 合	+ 0.1		
雑 品 目	7.9	+ 6.3	+ 0.2	- 0.2	+ 0.1	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2		
工 業 製 品	82.0	+ 3.8	- 0.1	- 0.2	保 合	+ 0.4	+ 0.2	+ 0.2	保 合	保 合	保 合		
うち													
大 企 業 性	59.6	+ 1.3	- 0.3	- 0.3	- 0.1	+ 0.3							
中 小 企 業 性	21.0	+ 11.0	+ 0.7	+ 0.1	+ 0.2	+ 0.6							
非 工 業 製 品	18.0	+ 16.4	- 1.4	+ 0.2	+ 0.1	+ 1.0	+ 0.8	- 0.2	- 0.2	+ 1.1	+ 0.3		

(注) 本行調べ。

さまで、一般に当面の商状を底固めの段階とみて腰を落ちてきている向きが多いようである。こうしたことから、最近の騰勢一服商状は、いわば上昇途上における一つのアヤ場面ともみられ、当面商品市況は多少の小浮動を繰り返すにしても、全体として徐々に底堅さを加えていくものと予想される。

品目別の動きをやや詳しくみると、鉄鋼は鋼板類、形鋼を中心に騰勢一服模様となった。問屋・特約店筋では、8、9月の騰勢がやや急テンポにすぎたとしてここでしばらく実需の動向を見きわめたいとする向きが目だっている。メーカー筋でも現在の相場水準でもって来期かなりの増益が見込めるに至ったことから、ここで無理押しするよりもむしろ相場の地固めをして、先行きの上伸に備えようとの態度を強めているようにうかがわれる。かかる事情から、先行き需給の引きゆるみを予想する向きはほとんどなく、先高を期待しつつも、当面強含み横ばい基調が続くとみる向きが多い。繊維は綿糸をはじめ総じて続落を示し、地合いは軟調となっている。これは、一般的に定期市場の人気離散によるところが大きく、これに伴って機屋の手当て態度もやや消極化したことによる。品目別には、上記の市場人気の離散といった事情のほか、メーカーの増産態勢整備(綿糸)、自主減産の足並みの乱れ(そ毛糸)、織物の売れ行き伸び悩み(生糸)などそれぞれ固有の事情も少なからず響いているものとみられる。次に非鉄は、8月来の一貫した値上がりだが、ここにきてスポット物輸入の入着(銅、鉛)などがみられたため上伸一服となったが、メーカー筋では依然先高に自信をいっているようである。石油は全般的に弱含み傾向をたどっている。もっとも、灯油では備蓄本格化からやや明るさが生じているが、なお安値の業者間転売が多く、相場が上向くまでには至っていない。セメントは、公共事業関係工事の本格化を控え、出荷好調から堅調を持續している。木材は外材が依然弱含みながら、内地材は産地の農繁期入りに伴う入荷減からジリ高傾向をたどってい

る。化学製品のうち、基礎薬品類は塩素、塩酸が値上がりした反面、併産品のかせいソーダが軟調を示すなど強弱区々ながら、総じてこれまでの基調に格別の変化が生じたとはみられない。合成樹脂は先般の高圧ポリエチレンの値上げ後はさすがに値動き乏しく、市況は大勢保合いとなっている。紙は強含みに推移したが、洋紙、板紙とも秋需の台頭から立直り気配を強めている。砂糖は荷動きがさえず荷余り感が強まっているため、軟化傾向を続けている。

(卸売物価——強含み傾向を持續)

卸売物価(総平均)は、8月保合いのあと、9月は+0.6%とかなりの上昇となった。これは、主として非鉄金属、木材・同製品、鉄鋼等が前月来の底堅い基調に加え、秋需台頭からいずれも相当な値上りを示したことによる。産業別では、工業製品が+0.4%と久々にかんがりの上昇となり、また非工業製品も+1.0%の上昇となった。

10月にはいつてからの動きをみると、上旬は、米価引上げから食料品が+1.2%と大幅な値上りを示したことを主因に、総平均で+0.2%の続騰を示し、中旬も、前旬の基調を受け継いで総平均で+0.1%の微騰となったが、食料品を除く総平均でみると、上旬、中旬ともそれぞれ前旬比保合いとなっている。

(消費者物価——9月急騰のあと、10月は急落)

9月の消費者物価(東京)は、前月比+3.9%と急騰し、28年10月(+4.1%)以来の大幅上昇となった。これは初物高のくだもの(+59.9%)、入荷最盛期明けの野菜(+56.5%)、台風の影響による生鮮魚介(+6.5%)等、値上がりの集中した食料の異常高(+7.8%)が主因で、このなかには一時的な要因による面も少なくないようである。もっとも、このほか、需要期入りに伴う秋冬物衣料の値上がりや、加工食品、外食等の根強い上昇も響いており、季節商品を除いても、前月比+1.3%とほぼ一年ぶりの大幅上昇となっている。

10月にはいつてからは、前月急騰を示した食料が季節商品の出回り好調から急落(-2.1%)し、

消費者・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエ イト	前年度比 上昇率	最近の推移			最近の 前月 同月 比		
			41 年度 平均	42年 度平 均	43年			
					8月		9月	10月
消 費 者 物 価	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.1	-0.2	+3.9	-0.8	+4.8
		91.4	+4.9	+3.9	+0.2	+1.3	+0.4	+5.4
	食料	40.9	+3.0	+5.7	-0.6	+7.8	-2.1	+5.2
	住居	10.7	+5.7	+3.7	+0.3	+0.3	+0.1	+2.6
	光熱	4.5	0.0	+0.1	保合	+0.1	+0.2	+0.1
	被服 雑費	13.0	+3.6	+3.0	-0.1	+4.6	-0.2	+5.4
	31.0	+7.9	+3.4	+0.3	+0.3	保合	+5.3	
全 国	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.7	+4.2	+0.9	+2.3		+6.5
		91.4	+4.7	+3.9	+0.2	+0.9		+5.8
人 口 上 の 五 万 都 市	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+4.6	+4.1	+0.8	+2.6		+6.6
		91.3	+4.6	+3.9	+0.1	+1.0		+5.8
輸 入 物 価	輸出		+0.6	+0.2	+0.1	+0.2		+0.4
	輸入		+1.4	-0.4	-0.4	+0.2		+0.1
	交易条件		-0.8	+0.7	+0.5	保合		+0.3

(注) 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。

被服費(衣料)も値下がりした(-0.2%)ため、総平均では前月比-0.8%とかなりの下落となった。もっとも、季節商品を除けば食料が+1.4%の値上がりを示しているほか、住居費、光熱費も依然小幅ながら上昇傾向をたどっているため、季節商品を除く総平均では+0.4%の上昇と前月に引き続き根強い騰勢を示している。

(輸出入物価——交易条件指数は保合い)

9月の輸出物価は、前月比+0.2%と続騰した。これは船舶の選別受注などによる機械器具の値上がりが大きく響いたほか、金属・同製品(鉄鋼、非鉄金属が国内市況の堅調と原料高から)、繊維品(織物が工賃高から)等も値上がりしたためである。一方、輸入物価も前月比+0.2%の反騰となったが、これは金属が海外市況の堅調を映じて銅、すずを中心に値上がりしたことによるもので、その他の品目は依然軟調裡に推移した。このため、交易条件指数は100.8と前月に大幅な改善をみた状態のまま保合いとなった。

◇国際収支の大幅黒字続く

9月の国際収支は、貿易外収支や長期資本収支

の赤字幅が多少増大したものの、貿易収支が季節性を映じて黒字幅を拡大した(黒字額343百万ドル、前月は306百万ドル)ため、総合収支では195百万ドルの受超と前月(同189百万ドル)に引き続き大幅な黒字を記録した。9月の貿易収支は季節調整後でも前月に近い黒字幅を維持した(244百万ドルの黒字、前月同257百万ドル)。これは、輸入がかなり水準を高めたものの、輸出も船舶輸出の集中から相当増加したためである。一方、貿易外収支は、期末月の関係もあって借入金利子や手数料などの支払が増高したことを主因に、114百万ドルの逆調(前月は同97百万ドル)とかなり悪化した。また、資本収支でも、長期資本が外資の流入超過額が減少したことから32百万ドルの流出超(前月は同12百万ドル)と赤字幅を拡大し、短期資本もBCユーザンスの減少などから45百万ドルの大幅赤字となった。なお、当月長期外資の流入超過額が減少したのは、主としてガリオア・エロア

国際収支

(単位・百万ドル)

	43年			43年			前 年 同 月
	1~3 月	4~6 月	7~9 月	7月	8月	9月	
経常収支	△296	191	501	80	199	222	40
貿易収支	118	546	848	199	306	343	156
輸出	2,569	3,112	3,327	1,056	1,117	1,154	904
輸入	2,451	2,566	2,479	857	811	811	748
貿易外収支	△354	△310	△322	△111	△97	△114	△110
移転収支	△60	△45	△25	△8	△10	△7	△6
長期資本収支	△110	△19	15	59	△12	△32	△74
基礎的収支	△406 (△112)	172 (327)	516 (286)	139 (57)	187 (138)	190 (91)	△34 (△105)
短期資本収支	115	△20	22	6	61	△45	33
誤差脱漏	44	69	2	12	△59	50	43
総合収支	△247	221	540	157	189	195	42
金融勘定	△247	221	540	157	189	195	42
外貨準備増減	△42	13	384	96	151	137	40
その他	△205	208	156	61	38	58	2
外貨準備高	1,963	1,976	2,360	2,072	2,223	2,360	2,022
為銀対外 ポジション	△1,234	△1,022	△856	△960	△911	△857	△941

(注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支には金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

債務の定期返済18百万ドルがあったため、民間インパクト・ローンの取入れは引き続き高水準を示し、海外投資家による本邦証券への投資もかなりの額に上った。

金融勘定では、外貨準備が前月に次ぐ大幅増(137百万ドルの増加)となり、為替銀行の対外ポジションも期末月とあって買持輸出手形が増加したことを主因にかなり改善をみた(54百万ドルの純負債減)。この結果、外貨準備高は、2,360百万ドルに達し、為替銀行の対外短期負債超過額は前月末の911百万ドルから857百万ドルにまで減少した。

9月の輸出は前年同月比で+27.7%、季節調整後の前月比でも+3.0%と高い伸びを示した。もともと、これは前3ヵ月概して停滞模様で推移してきた船舶の輸出が当月は著増した(通関ベース船舶輸出額、6月64、7月61、8月79、9月138各百万ドル)ことが相当響いており、この点を考慮すると、このところ輸出の増勢が春ごろに比べ鈍化していることはいなめない。ちなみに、季節調整後の前期比伸び率をみても、1~3月、4~6月にそれぞれ+8.4%、+10.9%と著伸したあと、7~9月には+2.4%の増加にとどまっている。9月の輸出を商品別(通関ベース)にみると、上記の船舶のほか、英国向け魚介類、中共向け化

学肥料等の船積みも集中し、また、テレビ、ラジオ、自動車、鉄鋼、合繊織物等も従来からの好調を持続した。反面、縫製品、雑貨等は停滞ないし伸び悩み傾向を示した。仕向け先別には、米国向けの伸びが前年同月比+26%とここ数ヵ月(前年同期比約4割増)に比べ低下したのがやや目だっている。これには、昨年秋口から対米輸出が好転をはじめ、前年同月の水準がかなり高めとなっていた点はいなめないが、そうした点を割り引いてみ

通関輸出の内訳

(単位・百万ドル)

	43年			43年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
食料品	104 (+24)	89 (+16)	111 (+7)	30 (-1)	35 (-4)	46 (+26)
魚介類	71 (+27)	52 (+7)	73 (+4)	18 (-8)	23 (-11)	32 (+30)
繊維製品	367 (+1)	485 (+12)	513 (+21)	168 (+18)	181 (+29)	164 (+16)
綿織物	45 (-20)	59 (-8)	59 (+1)	20 (-4)	20 (+4)	20 (+4)
合繊織物	69 (+5)	91 (+21)	103 (+44)	34 (+49)	35 (+35)	34 (+34)
化学製品	149 (-3)	207 (+15)	220 (+23)	72 (+14)	77 (+26)	71 (+29)
非金属 鉱物製品	71 (0)	82 (+9)	82 (+11)	28 (+13)	27 (+12)	27 (+8)
金属製品	484 (+22)	586 (+37)	615 (+34)	203 (+45)	206 (+30)	206 (+28)
鉄鋼	353 (+22)	427 (+40)	455 (+38)	146 (+48)	151 (+32)	158 (+37)
機械機器 (船舶を 除く)	1,164 (+20)	1,361 (+30)	1,462 (+27)	440 (+16)	483 (+26)	539 (+39)
テレビ	39 (+2)	57 (+77)	84 (+76)	23 (+59)	28 (+67)	33 (+103)
ラジオ	73 (+11)	98 (+24)	120 (+29)	39 (+34)	39 (+23)	42 (+32)
自動車	137 (+47)	179 (+52)	185 (+98)	61 (+105)	60 (+89)	65 (+101)
船舶	280 (+19)	254 (+22)	278 (+2)	61 (-35)	79 (-7)	138 (+45)
光学機器	73 (+6)	91 (+16)	98 (+20)	31 (+13)	36 (+31)	31 (+16)
その他	274 (+15)	360 (+16)	387 (+14)	129 (+15)	137 (+20)	120 (+8)
合計	2,612 (+15)	3,171 (+25)	3,389 (+24)	1,070 (+20)	1,146 (+25)	1,173 (+28)

輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		輸出 信用 状	輸出 認証	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易 じり	輸出	輸入			
42年 10~12月	872	826	46	887	1,065	732	931	1,078
43年 1~3ヶ月	945	808	137	960	1,025	780	1,014	903
4~6ヶ月	1,048	814	234	1,068	1,027	849	1,119	927
7~9ヶ月	1,073	867	206	1,107	1,108	876	1,163	1,005
43年5月	1,125	834	291	1,149	1,053	884	1,202	987
6ヶ月	1,034	809	225	1,048	1,013	844	1,110	913
7ヶ月	1,005	888	117	1,046	1,130	895	1,157	1,013
8ヶ月	1,091	834	257	1,101	1,067	858	1,155	1,006
9ヶ月	1,124	880	244	1,173	1,128	874	1,176	999

(注) 1. 季節調整はセンサス局法による。

2. 四半期計数は月平均額。

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

でも増勢は鈍化している。また、東南アジア向けも前年同月比+24%と高い伸びを続けているが、最近3~4ヵ月を通じてみれば多少伸び悩みぎみとなっている。

輸出信用状接受額は前年同月比+24.3%と順調な増加を続けた。ただ、季節調整後の動きをみると、6月ごろ以降は一高一低のうちにも伸び率は鈍化している。

一方、9月の輸入は、前年同月比で+8.4%、季節調整後でも前月比+5.5%とかなり水準を高めた。商品別の動向(通関ベース)をみると、食料、羊毛等は落ち着いた動きを続けている反面、石炭、石油、雑製品等は相変わらず根強い増加を続け、綿花も値上がりの影響もあってかなりの増加を示した。また、銑鉄、くず鉄は、その水準はなお低いものの、多少増加のきざしもうかがわれる。

年初来目だった増減のうかがわれなかった輸入素原材料在庫は、8月にやや増加した。この間、輸入素原材料消費も年央までは落ち着いた動きを続けてきたが、その後漸増傾向に転じたため、同在庫率は年初来さしたる変動を示していない。最近の輸入素原材料在庫には、綿花等一部に若干過剰きみとみられるものもないではないが、全体としてみると、さしたる過不足感はない模様である。

先行指標である輸入承認額は、前年同月比で+6.7%と比較的小幅の増加にとどまり、季節調整後では前月比微減となった。しかし、最近2~3ヵ月の水準は4~6月ごろに比べてかなり高くなっていることからみて、輸入は先行き漸増傾向

をたどるものと予想される。

通関輸入の内訳

(単位・百万ドル)

	43年			43年		
	1~3月	4~6月	7~9月	7月	8月	9月
食料品	462 (+ 2)	485 (0)	445 (+ 8)	144 (+ 12)	155 (+ 9)	146 (+ 4)
小麦	74 (+ 16)	68 (- 26)	74 (- 7)	21 (- 29)	28 (- 7)	25 (+ 27)
とうもろこし	58 (+ 2)	67 (+ 23)	54 (+ 8)	19 (+ 24)	18 (+ 7)	16 (- 6)
砂糖	45 (+ 25)	44 (+ 40)	26 (- 1)	9 (- 3)	10 (- 11)	8 (+ 18)
原燃料	1,791 (+ 13)	1,921 (+ 13)	1,864 (+ 13)	653 (+ 22)	602 (+ 8)	609 (+ 11)
羊毛	82 (- 15)	96 (- 4)	92 (+ 2)	35 (+ 10)	31 (- 6)	26 (+ 3)
綿花	127 (0)	154 (+ 12)	114 (+ 25)	41 (+ 29)	36 (+ 21)	38 (+ 25)
鉄鋼石	187 (+ 11)	218 (+ 15)	210 (+ 16)	76 (+ 30)	72 (+ 15)	62 (+ 4)
鉄鋼くず	39 (- 33)	34 (- 61)	32 (- 67)	11 (- 70)	9 (- 74)	12 (- 53)
大豆	69 (- 11)	68 (+ 11)	66 (+ 9)	27 (+ 46)	17 (- 19)	21 (- 7)
木材	249 (+ 26)	315 (+ 37)	300 (+ 19)	109 (+ 31)	98 (+ 6)	93 (+ 22)
石炭	122 (+ 32)	126 (+ 23)	135 (+ 38)	49 (+ 46)	41 (+ 31)	45 (+ 38)
原油	417 (+ 22)	410 (+ 19)	404 (+ 22)	124 (+ 24)	139 (+ 25)	141 (+ 17)
化学製品	166 (+ 18)	157 (+ 4)	174 (+ 13)	65 (+ 35)	54 (+ 2)	56 (+ 5)
機械機器	333 (+ 36)	339 (+ 22)	307 (+ 25)	112 (+ 58)	94 (+ 11)	101 (+ 14)
鉄鋼	64 (- 12)	51 (- 48)	56 (+ 39)	17 (- 36)	20 (- 41)	19 (- 39)
非鉄金属	161 (+ 26)	152 (+ 3)	145 (0)	44 (+ 2)	50 (- 11)	51 (+ 10)
その他	144 (+ 40)	149 (+ 25)	178 (+ 30)	61 (+ 43)	59 (+ 21)	58 (+ 27)
合計	3,120 (+ 15)	3,255 (+ 9)	3,170 (+ 12)	1,096 (+ 22)	1,034 (+ 6)	1,039 (+ 9)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。